

## 住吉浜から

木<sup>き</sup>村<sup>むら</sup>マサ子



函館山の東端に突き出た立待岬、その麓1km程の海辺が私の住む住吉浜です。地元ではスサビ（アイヌ語でSUSI・san・pe）山が浜の方へ出ている処から（と呼ばれている奇岩の目立つ磯浜です。海辺から函館山へ広がる住吉町には、五〇〇世帯程が住み、そのは

とんどが二代目・三代目として暮らしておられます。家々は、名字よりも屋号や本家・別家と呼び合うことが多く、何軒かの本家から分かれているようです。私の家も先代が青森から移住してきた漁師で、私で三代目になります。かつてはほとんどが漁師でしたが、現在では一〇〇世帯程がウニ・アワビ・タコ・ワカメ・コンブ・サケ・チカなどを漁獲としています。

私がここを自然観察の実験場として観察を始めたのは、六年前に阿寒湖畔で開かれた「一步園大学」を受講してからのことです。三泊四日の感動的な体験が、私も地元でやってみよう！と思立したのです。それ以来、朝夕、窓越しに見られる海鳥の様子や、散歩で出逢う立待岬の花たちをメモしたり、浜の人達の昔話を拾い集めたりしております。

前浜は浜の子供達の遊び場だったので、その頃の記憶と対比しながら観察を続けていると、すっかり変わった浜の環境に空しさを感じます。

特にこの三年前からの磯の様子は、一変しております。毎年秋の渡りに海面を銀色に染めていたウミネコは、多い時で一〇〇羽程の集団でしか見られなくなりました。ガンカモ類も激減し、コクガン調査や白鳥の越冬記録等は、懐かしい記録になりつつあります。函館公園の桜が満開の頃、磯で群れ立ち

求愛給餌を見せていたイソヒヨドリは何処へ行ったのでしょうか？

そしてまた立待岬の岩壁の様子も、変わりつつあります。磯の状態や鳥達の飛来は、前浜と同じく減少傾向なのですが、その中で面白い現象が観察されています。それは、五月中旬になると岩壁はオオセグロカモメで一色となり、他の鳥の姿が見えなくなってしまうということなんです。やがて、このカモメ達は岩場に巣を作り出し、八月上旬までここを占領しています。巢は、この夏二〇ヶ所程で確認されており、それが一年中、住吉浜から立待岬で生活するカモメがいるためということになるのです。

また、子供の頃の住吉浜は、コンブが足に引く掛かる程生えていました。春はワカメ、夏はコンブ、冬は岩海苔で、磯はいつも黒々と光っていたのですが、数年前から護岸工事が始まり、磯にテトラポットが並び、舟揚場がコンクリート製斜路に改築されるようになってからは、海草がめっきり少なくなったような気がします。「今年は天候不順で」と嘆く、漁業者の天然コンブの収穫は0でした。

浜の色が黒から白へ変わってきたことは、全国的にみられる磯やけ現象とはいえ、住吉浜では、この他に気にかかることが何点あります。

まず一つは、函館市内では今、水洗

化が進められているのですが、この海辺の低い地区がその計画から外されているのです。最近この地区内では、増改築が進み、世帯数も増すと共に生活排水も増え、それらの全てが海へ流されています。また、漁業者にとっては畑である筈の海へ、ゴミ(家庭内での不用品も)を捨てる習慣が、未だに残っているのです。更に驚くのはコンブ干場の除草に薬が使い出されたことや、遊漁船の数が増え、船外機も大型化されてきていること等です。

そんな状況の中で、函館西部地区(函館山山麓周辺)に高層マンション建設が始まりました。住吉浜2km以内に六棟が建ち、その他に計画許可の出されているものが三棟、海辺二〇㌔の所で開発が行なわれようとしているものが一ヶ所あります。

高層マンションは、「函館山周辺の景観を損なうため、観光都市函館のイメージをダウンさせている」とか、「リゾート型のため、普段は人の気配がなく、暗い町を作り出している」等と言われています。西部地区に建てられるマンションは、建物からの眺望が売物ですから、急斜地のどんな場所でも土砂を盛ったり削ったりして工事を進め、マンション周辺だけ整備して完成させます。このため、その後少し

でも強い雨が降ると、低い民家の方へ土砂が流れたり、その流れた土砂が側

溝を埋めてしまうため、雨水はアスファルト路面を走りやがて住吉浜へ流れ込んでしまうのです。そのせいか、排水口周辺の磯の白さが特に広がって見えます。後継者のいない浜の人にとって浜の変化は、仕方ないことのようにです。

手に取って見られず、形に現れない原因を探することは無理のように思えました。しかし昨年、海辺に降ってわいたような高層リゾートホテル計画には、地域の住民も流石に関心が高く、「自分達も何かしなければ」と、住吉浜の環境を守るために立ち上がりました。町の歴史・今の環境・町を取り巻く背景・函館の中での住吉町の意義……等、町の中から、町の外から、自分の住む町を見つめる行動を始めました。そしてその結論から、町民八〇%以上の賛同署名を集めた町民宣言を発表し、街角に掲示したのです。

#### △住吉町民宣言▽

祖先の開拓した住吉浜一帯は、函館の文化・産業発祥の地であり、歴史と風土によってはぐくまれた生活文化は、住民の郷土愛によって、大切に守られてきました。これらの歴史的環境と美しい景観を子孫に残すことは、私達の義務です。

環境を破壊し、住民不安を起こすような高層建築物や風紀上好ましくない

建築物には、私達住民は絶対反対です。  
立待岬の景観と住吉浜の環境を守る会

その頃、西部地区には、一〇ヶ所近い高層マンション計画があり、それぞれの地域に住民の会が出来ていました。互いに連絡をとり合いながら、何度も勉強会や報告会を開き、住環境と函館山周辺の景観を守るためのマンション反対は、全市的な運動に広がって行きました。

市民の熱意と議会の理解、市の思い掛けなく素早い対応などもあり、まもなくホテル建設業者は、建設中止を発表しました。同時にマンション建設も、パブル景気が弾けたために鎮静化していきましました。

市長は三年後を目途に景観条例の精神を取り入れた全市的な町づくり案を約束しております。私達住民も、どんな町づくりを目指すのか考えていかなければなりません。

海に生活の糧を求める漁業の町。啄木墓碑からの美しい眺望を持ち、四〇〇〇基の墓を抱える立待岬の入口でもある町。函館山から海へ広がる山麓の町。そんな住吉町は一体どんな町であるべきなのでしょう？

今、住吉町は新たなスタートを切ったばかりです。

(自然観察指導員 函館市在住)